

平成30年度 学校評価総括評価表

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	今後の改善方策	
学力の育成	(全校レベル) (1) 規律ある授業の実施に努め学習態度と意欲の向上に努める	評価指標 (1) 生徒の授業満足度調査 80%以上 (2) 授業実施時間数の状況調査 1単位27時間以上 (3) 生徒の成績状況調査 年2回以上 (4) 漢字検定実施状況調査 9回 5級以上 70%以上 (5) マナトレ(数学補習)実施状況調査 20回 8級 50%以上 (6) 計画的な職員研修の実施状況 研究授業 3回以上 授業力向上職員研修会 1回以上	評価指標の達成度 (1) 生徒の授業満足度調査(9月) 86.8% (満足・おおむね満足) (2) 授業実施時間数の状況調査 1単位平均 時間 (3) 生徒の成績状況調査 年3回 (4) 漢字検定実施状況調査 8回 5級以上 69.6% (5) マナトレ(数学補習)実施状況調査 19回 8級以上合格 41.2% (6) 計画的な職員研修の実施状況 研究授業 2回(11月) 授業力向上職員研修会 0回	評定 A A B B C	総合評価 B (所見) 教員数減で授業に支障が出ることもあったが、おおむね計画通り実施できた。「学校生活の基本は授業である」ということを、全校集会等で事あるごとに話してきたが、学習に対して積極的に取り組む生徒と、そうでない生徒との2極化が進んでおり、その態度が学習成果に直結している。授業は全体的に落ち着いた雰囲気の中で実施できている。実習にも積極的に取り組む姿勢が多く見られる。しかし、まだまだ取り組みの甘い生徒もおり、残念ながら十分とは言えない。また、漢字検定とマナトレにおいても、全校的な取り組みとして効果を上げているが、まだまだ生徒によって取り組みに差がある。合格率は昨年度よりも上昇したが、より成果の上がる指導法を検討する必要がある。	○基礎学力が不足している生徒に対しての働きかけは、大変だと思うが、色々な方法を試してほしい。 ○学校長をはじめ、先生方が積極的に取り組まれていると感じた。 ○教員数が減少し、研修の実施が難しくなっている。 ○漢字学習は将来的にも大切である。指導方法を更に工夫し、継続してもらいたい。
	(下位組織レベル) (1) 基礎学力の向上を行う (2) 教科指導の充実とレベルアップを行う	活動計画 (1)-1成績不振者に対するきめ細かな指導に努める。 (1)-2追試・補講を実施して強力に指導を行う。 (2) 授業時間を集計し授業時間の確保に努める。 (3) 実力テストを実施して学力の実態把握を行う。 (4) 漢字検定を実施して読み書き力の養成に努める。 (5) 数学学び直しを実施して計算力の養成に努める。 (6)-1年間指導計画を作成し、効果的な教育内容の構築を図る。 (6)-2教職員研修計画を作成し、指導力の向上を図る。	活動計画の実施状況 (1)-1 放課後や長期休業を利用し、個別指導を中心に行った。 (1)-2 追考査、補講は計画的に実施した。 (2) 出張、学校行事を精選し、授業時数の確保に努めた。 (3) 5, 9, 1月に実力テストを実施した。 (4) ショートホームルームや授業等を活用して全校的に取り組んだ。(年8回実施) (5) 各ホームルームに2~3名教員を割当て、特設の時間(8:35~9:00)に、19回実施した。 (6)-1 評価規準を含んだ年間指導計画を作成し、計画的に指導を行った。 (6)-2 研究授業は2回実施したが、授業力向上に関する職員研修会は実施できなかった。	○校内漢字検定、マナトレについては、停滞している生徒にもっと焦点を当て、指導していきたい。 ○授業力向上に向け、研究授業や職員研修会だけに頼ることなく、普段の中で情報の共有、伝達等が行えるような工夫をしていきたい。		

【備考】 総合評価における「評定」の基準】 A：十分達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。

平成30年度 学校評価総括評価表

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	今後の改善方策	
生活力の育成	(全校レベル) (1)基本的な生活習慣の確立を図る。 (2)生命尊重の意識の高揚と交通事故の撲滅を図る。 (下位組織レベル) (1)保護者との連携を密にし、相互理解の上で指導の充実を図る。 (2)遅刻・欠席指導の徹底を図る。 (3)身だしなみ指導の徹底を図る。 (4)登下校指導を行う。 (5)交通安全指導の徹底を図る。	評価指標 (1)家庭訪問実施回数 50回未満 (2)遅刻者率 0.5% (3)身だしなみ指導者率 10% (4)車両定期点検の実施回数 5回以上 (5)交通事故加害者数 0人 (6)いじめ問題件数 0件	評価指標の達成度 (1)家庭訪問実施回数 13回 (2)遅刻者率 0.1% (3)身だしなみ指導者率 10% (4)車両定期点検の実施回数 5回 (5)交通事故加害者数 0人 (6)いじめ問題件数 1件	評定 A A B A A C 総合評価 B (所見) 生徒指導による家庭訪問の回数が減り、生徒も落ち着いた学校生活を送ることができているように思える。1年生には遅刻の多い生徒がいるが保護者の協力を得るよう働きかけている。 身だしなみ指導では、同じ生徒が繰り返し指導を受けることが多く、頭髪の改善指導を毎回受けることもある。 交通安全・列車の乗降マナーなどには交通講話や登下校指導などにより、マナーの向上が見られる。 いじめに関してはアンケートによる調査では、言葉のすれ違いや、SNSなどを使った言葉のやりとりでの勘違いなどで友人関係がうまくいかない生徒もいるが、担任など関係職員が入り早期解決ができた。	○基本的生活習慣が大切だと伝えることが必要なので、指導できていることは素晴らしいと思う。 ○SNSの利用については使用方法などの指導を徹底してもらいたい。	○高校は社会に出るための準備期間であり、基本的生活習慣を確立させるために、入学時に家庭訪問を行い、家庭との連携を深め学校・家庭の両面からサポートしていくことが必要である。2・3年生に対しても学校生活や友人関係、進路などで気になることがあれば家庭訪問を積極的に実施する。 ○交通安全については警察と連携し、交通安全講話や実技指導、3年生に対しての自動車安全運転講話を充実させ交通事故の起こらない環境作りを行いたい。 ○いじめ問題の起こらない環境作りはもちろん、早期発見・早期対策ができるよう教職員間で共通理解を図り取組を徹底する。
		活動計画 (1)修学困難生への家庭訪問を実施する。 (2)-1遅刻カードを使い確実に遅刻者を指導する。 (2)-2無断遅刻・無断欠席数調査を月末集計し、多い者への改善指導を徹底する。 (3)毎月初めに頭髪・服装等身だしなみ検査を実施して指導を徹底する。 (4)車両登録をさせ、学期初めと学期終わりに安全点検と学期毎に集会を行い交通事故を未然に防ぐ。 (5)-1自転車、バイクを利用して通学する生徒に対する実技指導を行う。 (5)-2登下校指導計画を作成し指導を行う。(あいさつ, 遅刻, 服装) (5)-3教職員一斉による通学路の危険箇所における交通安全指導を行う。 (6)-1いじめ問題の早期発見を行う。(アンケート調査の実施) (6)-2いじめ問題の早期解決を行う。(事後指導の確認)	活動計画の実施状況 (1)定期の家庭訪問以外に、学校生活の中での問題行動等で家庭訪問し、家庭との連携を深めることができた。 (2)遅刻カードを使い確実に遅刻者を指導することができた。 (3)毎月初めに身だしなみ検査を実施した。朝のSHRや授業前に身だしなみを整える習慣がついた。 (4)車両登録・安全点検を専門業者立ち会いの下年間2回、交通安全委員が毎学期1回実施した。全校集会では交通安全に関する注意を行った。 (5)-1交通安全講話の後自転車と原付自転車の実技指導を行った。また、3年生には自動車安全運転講習会を行った。 (5)-2指導計画により挨拶の励行及び身だしなみ指導ができた。 (5)-3通学路での交通指導と、JR駅での乗車指導を行いマナーの向上を図った。 (6)-1毎学期アンケート調査を行った。 (6)-2早急な対応ができ本人及び保護者に理解を得ることができ早期解決できた。			

【備考】 総合評価における「評定」の基準】 A：十分達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。

平成30年度 学校評価総括評価表

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	今後の改善方策	
生活力の育成	(全校レベル) (1)生徒一人一人が健康で安全な学校生活をおくる保健厚生への取組の充実を図る。 (下位組織レベル) (1)個々の健康管理を支援する。 (2)健康教育の充実に努める。 (3)性に関する指導を推進する。	評価指標 (1)保健関係ホームルーム活動 各学年・年2回以上 (2)保健だよりの発行 年12回 (3)①健康状態の把握 80%以上 ②疾病やけがの手当等の理解度 80%以上 (4)性に関する指導の理解度 90%以上 (5)救命救急法等の職員研修受講率 100%	評価指標の達成度 (1)保健関係ホームルーム活動 2回実施(うち全校生徒対象1回含む) (2)保健だよりの発行 平成31年3月までに11回発行 (3)①健康状態の把握 93.0% ②疾病やけがの手当等の理解度 91.5% (4)性に関する指導の理解度 96.6% (5)救命救急法等の職員研修受講率 教諭受講率86.7%、常勤教職員受講率68.0%	評定 A B A A B	総合評価 B 評価指標関連については概ね達成できた。特に健康状態の把握における生徒の理解度は、昨年度と比べて高くなっている。しかし理解度が向上している一方で、行動には結びついていない生徒がいることも事実であり、正しい知識を習得した後、行動変容に結びつけることについて課題が残った。また、救命講習では、地域の消防署との連携を図ることで、最新の知識と技術を得ることができている。今年度は事務職員等を含めた常勤教職員の受講率が向上し、危機管理体制の充実につながった。	○保健教育では、健康診断結果の活用などを含め、生徒の実態に合わせたテーマを設定し、知識だけでなく実践力を養う指導を行いたい。 ○救命講習では、受講できなかった教職員に伝達講習を実施するなど、誰もがいつでも対応できる体制を整えたい。講習内容についても、より実際の場面に近い状況を設定し実践力の向上を図りたい。
		活動計画 (1)健康教育ホームルーム活動、性に関するホームルーム活動を計画的に実施する。 (2)学校ホームページや生徒への配布物を通して、健康に関する情報発信を行う。 (3)生徒の健康課題や保健室の実態を保健指導に生かし、生活の改善を図る。 (4)各学年において系統的な性に関する指導を実施するため、年間計画を策定し、関連する各教科と連携を図る。 (5)救命救急法等の研修を実施する。 (1)~(5)学校保健計画・学校安全計画を作成し、計画的な指導を行う。 (6)奨学金の効果的な運用を行う。	活動計画の実施状況 (1)健康教育ホームルーム活動では、年間行事計画に沿い、1年生は「デートDV」、2年生は「自己分析」3年生は「生涯にわたる健康」について実施した。また、全学年を対象とした性教育講演会を1回開催した。 (2)講演会の様子を学校ホームページへ掲載した。また、保健だよりを計11回発行した。発行は長期休業以外の毎月1回と、修学旅行前の1回。継続的に情報発信ができた。 (3)各ホームルーム担任に依頼し、健康診断結果の通知を三者面談で行った。受診や配慮を要する事項について、家庭との共通理解を図ることができた。また、高度肥満者へ2ヶ月に1回体重測定と生活指導を行った。保健室来室者へは、再発防止や適切な対処方法が習得できるよう、生徒の理解度に応じた指導を行った。健康教育においては、デートDVや生活習慣についての指導を行い、さらに全学年対象に性教育講演会を育講演会を実施した。 (4)学年や各教科と連携を図り、性に関する年間指導計画を策定した。 (5)教職員対象として救命講習を1回開催した。消防署員を講師として招き、正確かつ最新の知識と技術を確認する場とした。 (1)~(5)年度当初に学校保健計画と学校安全計画を策定し、全教職員で共通理解を図るとともに、計画的かつ継続的な指導を行っている。 (6)進学者2件、在学者4件、学校設備1件申請した。その他募集案内を随時行っている。			

【備考】 総合評価における「評定」の基準】 A：十分達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。

平成30年度 学校評価総括評価表

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と																	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	今後の改善方策																	
生活力の育成	(全校レベル) (1)特別教育活動の充実を図る	<table border="1"> <tr> <th>評価指標</th> <th>評価指標の達成度</th> <th>評定</th> <th>総合評価</th> </tr> <tr> <td>(1)ホームルーム活動満足度 80%以上</td> <td>(1)ホームルーム活動満足度 85%</td> <td>A</td> <td rowspan="4">B</td> </tr> <tr> <td>(2)生徒会の活動状況 学校行事の満足度 90%以上</td> <td>(2)生徒会の活動状況 学校行事の満足度 93%</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>(3)各種専門委員会の活動状況 年間活動回数 6回以上</td> <td>(3)各種専門委員会の活動状況 年間活動回数 3.8回</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>(4)部活動の加入状況 80%以上</td> <td>(4)部活動の加入状況 56%</td> <td>C</td> </tr> </table>	評価指標	評価指標の達成度	評定	総合評価	(1)ホームルーム活動満足度 80%以上	(1)ホームルーム活動満足度 85%	A	B	(2)生徒会の活動状況 学校行事の満足度 90%以上	(2)生徒会の活動状況 学校行事の満足度 93%	A	(3)各種専門委員会の活動状況 年間活動回数 6回以上	(3)各種専門委員会の活動状況 年間活動回数 3.8回	C	(4)部活動の加入状況 80%以上	(4)部活動の加入状況 56%	C	<p>(所見)</p> <p>生徒を主体として学校行事を行う事によって、学校への所属感や連帯感を深め、協力してより良い学校生活や社会生活を築こうとする自主的、実践的態度を育てることができた。また、昨年度のアンケート結果を参考に改善したことで学校行事の満足度を向上させることができた。</p> <p>また、HR活動を通して学年・HR単位での活動、専門委員会で異年齢集団による交流を促し、望ましい人間関係を形成する態度を育てることができた。</p> <p>一部の生徒のみが活躍するのではなく、生徒全員が満足感を得ることのできる生徒会活動、学校行事を行うことができるように努めていきたい。</p>	<p>○生徒会と各種委員会の連携を活性化してほしい。</p> <p>○部活に入らない生徒はなぜ入部しないのかその原因を分析し、部活動の活性化につなげてほしい。</p> <p>○三校交流の事業を何か実施みてはどうか。</p>	<p>集団や社会の一員としてより良い生活や人間関係を築こうとする自主的・実践的態度を育てるために、生徒全員に焦点を当て、学校行事や生徒会活動を行う必要がある。</p> <p>そのための方策として、①アンケート結果を参考に生徒のニーズに合わせた行事を展開する②より細かな活動計画を作成するとともに、専門委員会との連携を密にし、各HRでの要望を学校行事に生かしていく。</p> <p>上記の取組を遂行することで、生徒の心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、自己を生かす能力の向上へつなげていくことが重要である。</p>
	評価指標	評価指標の達成度	評定	総合評価																		
(1)ホームルーム活動満足度 80%以上	(1)ホームルーム活動満足度 85%	A	B																			
(2)生徒会の活動状況 学校行事の満足度 90%以上	(2)生徒会の活動状況 学校行事の満足度 93%	A																				
(3)各種専門委員会の活動状況 年間活動回数 6回以上	(3)各種専門委員会の活動状況 年間活動回数 3.8回	C																				
(4)部活動の加入状況 80%以上	(4)部活動の加入状況 56%	C																				
(下位組織レベル) (1)ホームルーム活動の活発化を図る (2)各種専門委員会活動の推進を図る (3)生徒会活動・部活動の活性化を図る	<table border="1"> <tr> <th>活動計画</th> <th>活動計画の実施状況</th> </tr> <tr> <td>(1)生徒の実態に合わせて授業を展開しよりよい人間関係づくりに努める。</td> <td>(1)より良い人間関係づくりを促すために、話し合い活動等を活用した授業を展開することができた。</td> </tr> <tr> <td>(2)各種専門委員会の活動の充実に努める。</td> <td>(2)計3回の専門委員会を行ったが、生徒会活動と各委員会での連携した活動へつなげることができなかった。</td> </tr> <tr> <td>(3)-1生徒会活動の活性化を図り活動計画を作成し充実に努める。</td> <td>(3)-1 生徒会活動の年間計画を作成し生徒会活動に活かすことができた。</td> </tr> <tr> <td>(3)-2前日祭実行委員会の活動の活性化を図り充実に努める。</td> <td>(3)-2 各学年から前日祭実行委員を集めることで、全学年のニーズに合わせて活動を考えることができた。</td> </tr> <tr> <td>(4)部活動の充実に取り組む。</td> <td>(4)教員、上級生からの勧誘などを積極的に行ったが、入部率の向上へはつながらなかった。</td> </tr> </table>	活動計画	活動計画の実施状況	(1)生徒の実態に合わせて授業を展開しよりよい人間関係づくりに努める。	(1)より良い人間関係づくりを促すために、話し合い活動等を活用した授業を展開することができた。	(2)各種専門委員会の活動の充実に努める。	(2)計3回の専門委員会を行ったが、生徒会活動と各委員会での連携した活動へつなげることができなかった。	(3)-1生徒会活動の活性化を図り活動計画を作成し充実に努める。	(3)-1 生徒会活動の年間計画を作成し生徒会活動に活かすことができた。	(3)-2前日祭実行委員会の活動の活性化を図り充実に努める。	(3)-2 各学年から前日祭実行委員を集めることで、全学年のニーズに合わせて活動を考えることができた。	(4)部活動の充実に取り組む。	(4)教員、上級生からの勧誘などを積極的に行ったが、入部率の向上へはつながらなかった。									
活動計画	活動計画の実施状況																					
(1)生徒の実態に合わせて授業を展開しよりよい人間関係づくりに努める。	(1)より良い人間関係づくりを促すために、話し合い活動等を活用した授業を展開することができた。																					
(2)各種専門委員会の活動の充実に努める。	(2)計3回の専門委員会を行ったが、生徒会活動と各委員会での連携した活動へつなげることができなかった。																					
(3)-1生徒会活動の活性化を図り活動計画を作成し充実に努める。	(3)-1 生徒会活動の年間計画を作成し生徒会活動に活かすことができた。																					
(3)-2前日祭実行委員会の活動の活性化を図り充実に努める。	(3)-2 各学年から前日祭実行委員を集めることで、全学年のニーズに合わせて活動を考えることができた。																					
(4)部活動の充実に取り組む。	(4)教員、上級生からの勧誘などを積極的に行ったが、入部率の向上へはつながらなかった。																					

【備考】 総合評価における「評定」の基準】 A：十分達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。

平成30年度 学校評価総括評価表

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	今後の改善方策	
生活力の育成	(全校レベル) (1) 環境教育の推進を図るために、三好校エコスクールの推進と新学校版環境ISOの推進を実践する。 (2) 学校防災教育の推進を図るとともに、地域防災との連携を図る。 (下位組織レベル) (1) 校内外の美化活動を推進する。 (2) 省エネルギー・リサイクル運動を推進する。 (3) 防災学習の充実 (4) 防災訓練の充実 (5) 教職員生徒の防災意識向上及び防災リーダー育成を行う。	評価指標 1) 新学校版環境ISOの総合評価レベル15以上。 ①美化活動・エコ活動の達成度 90% ②節電昨年度比 10%減少	評価指標の達成度 1) 新学校版環境ISO; の総合評価レベル16 ①美化活動・エコ活動の達成度83% ②節電昨年度比 10%減少	評定 B B B B	総合評価 B (所見) 環境教育の推進を図るために校内の環境美化や校外の美化活動を実施するなど継続した活動が浸透している。 防災意識の向上や防災学習の充実を目指し、高校生防災士の育成や防災に役立つ第4種無線資格取得などを受講する生徒が年々増加している。	○電気の使用量は、掲示するなど節電につなげてほしい。 ○地域との連携は難しいと思うが続けてほしい。 新学校版ISOスクールの見直しと地域と繋がった活動の実践を目指す。
		活動計画 1) ①-1校内外の清掃美化実践をする。 ①-2施設設備の補修等即対応する。 ①-3ゴミの分別100%を目指す。 ②-1エコキャップの回収と活用を実践する ②-2毎月の電気使用量についてデータを配布する。 ②-3こまめな消灯の徹底など啓発活動を行う。 2) ①-1防災学習を通して意識を高める。 ①-2救急救命の適切な指導をする。 ②-1有事の際に対応できる防災避難訓練を計画。 ②-2災害発生時の生徒・職員の生命・身体の安全を確保を目的とした防災研修を実施する。 ②-3地域との連携を図り、合同訓練の実施を計画・実践する。	活動計画の実施状況 1) ①-1毎月の校内外の清掃美化活動を実施 ①-2施設設備の補習に即対応・修繕 ①-3概ね分別はできている ②-1概ねエコキャップの回収継続 ②-2電気使用量について記録はしているが配布はできていない ②-3こまめな消灯を実践 2) ①-1毎学期の防災学習を実施 ①-2関連授業で適切に指導 ②-1有事の際に対応できるマニュアルの作成 ②-2Jアラート訓練と火災避難訓練を実施 ①-3本年度は実施できなかった			

【備考】 総合評価における「評定」の基準】 A：十分達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。

平成30年度 学校評価総括評価表

自己評価				学校関係者評価		次年度への課題と	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価			学校関係者の意見	今後の改善方策
進路・キャリア教育	(全校レベル) (1)一人一人の生徒の適性を踏まえ、能力を生かした進路の実現のための進路指導・キャリア教育を推進する。 (下位組織レベル) (1)生徒の進路希望の把握と適性・能力を加味した、進路意識の高揚に努める。 (2)進路情報の提供を丁寧に継続的に行う。 (3)事業所・進学先・ハローワーク・市役所等との連携に努める。 (4)生徒の学力の実態把握に努め、学力向上を推進する。	評価指標 (1)3年生進路内定率 100% (2)2年生終了時の進路希望未定者 0 (3)進路希望調査 年間2回以上 (4)面接回数 一人あたり3回以上 (5)進路ホームルーム活動 年間3回 (6)事業所訪問 25社以上 (7)進路補習への参加率 90%以上 (8)マナトレ実施状況 ①実施回数 20回以上 ②7級合格率 50%以上 (9)効果的な進路講演会及び進路ガイダンスの実施 各学年 年2回	評価指標の達成度 (1)3年生進路内定率 97% (2)2年生終了時の進路希望未定者2 (3)進路希望調査 年間2回 (4)面接回数 一人あたり3回程度 (5)進路ホームルーム活動 年間3回 (6)事業所訪問 22社 (7)進路補習への参加率 91.5% (8)マナトレ実施状況 ①実施回数 19回 ②7級合格率 35% (9)効果的な進路講演会及び進路ガイダンスの実施 3年2回, 2年3回, 1年2回	評定 B B B B B B B B A	総合評価 B 本年度の3年生も進路実現に向けて熱心に取り組み、内定・合格をいただいた。生半かな気持ちでは就職・進学をさせられないという先生方のご指導の結果である。その指導に素直に従い、自分の目標を持ち、必死に努力する生徒の姿を見ることができた。 しかし、必死さが現れたのは目の前に試験が迫ってきた頃であった生徒も少なくはない。2年生の中にはすでに、将来の目標に向けスタートしている生徒もいるが、全体的にもう少し早めに行動する必要がある。 また、基礎学力の定着の方策として、マナトレの効果的な学習方法を検討する必要がある。 全体を通して、進路指導課を中心とし、学年に応じて系統立てた進路計画を展開する必要があると考えられる。	○コミュニケーションの力をしっかりとつけてほしい。 ○3年計画で、系統立てた進路指導をしていく必要がある。各学年と協力をし、進路のホームルーム活動やガイダンス・講演会等充実を図っていきたい。 ○教員数の減少により、進路事務の作業に追われる時間が増えた。一人の教員にその仕事が偏ってしまわないよう、進路課全員で分担しなければならない。また進路指導の方法について全教員で共通理解を図り、教職員・生徒がともに目標実現に向かって進んでいけるよう組織作りをしていかなければならない。	
		活動計画 (1)個人・三者面談等を積極的に企画。3学年団との協力を密にする。 (2)面談の結果から進路指導の基礎資料を作成する。 (3)定期的に進路希望調査を行う。 (4)効果的な面接方法についての資料提供等を行う。 (5)3年間の系統的なホームルーム活動を実施する。 (6)従来からの関係事業所同様、新規事業所への開拓にも力を入れる。 (7)基礎学力の向上と進路への意識を高める。 (8)マナトレ学習帳を各自使用し、個々の学習進度に応じたトレーニングに励ませる。 (9)適切な時期に適切な話をしていただけの講師を探し、生徒の心に訴えるような講演会・ガイダンスを企画する。	活動計画の実施状況 (1)担任・進路課で定期的に面談を行い生徒理解と指導に努めた。 (2)面談の結果をまとめ、次年度に向けての準備を行った。 (3)3年生は随時。1・2年生は2回行った。 (4)実施できず。 (5)アンケートの実施や、進路だよりを配布するなど、学年に応じたホームルーム活動を実施した。 (6)新規事業所への求人雇用3件。 (7)補習に積極的に参加できた生徒は、集中力をきらさず、最後まで進路決定に向け取り組むことができた。 (8)学校全体で取り組んでいるが、改善の必要あり。 (9)遠隔授業・県教委等外部の方の協力もあり、充実した内容の講演会が実施できた。また、ガイダンスにおいても様々な体験ができたも生徒も満足できていた。				

【備考】 総合評価における「評定」の基準】 A：十分達成できた。 B：概ね達成できた。 C：今後の努力が必要。

平成30年度 学校評価総括評価表

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と		
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	今後の改善方策		
キャリア教育	(全校レベル) (1)特色ある農業教育の推進を図る。 (2)地域産業の担い手育成に関する地域連携を推進する。 (下位組織レベル) ①地域連携の推進を図る ②教職員の資質向上を図る ③資格取得の推進を図る ④農業クラブ活動の活性化を図る	評価指標 (1)課題研究成果の充実 (3研究以上) (2)農業研修会への参加 年間3回以上 (3)学校開放講座参加者の満足度 (4)農業技術検定合格率 80%以上 (5)学校農業クラブでの成果 (6)地域と連携した取組の推進 (7)授業に対する生徒の満足度	評価指標の達成度 (1)研究成果を校外にて報告 3研究 (2)校外研修への参加 年間3回 (3)学校開放講座参加者の満足度 100% (4)農業技術検定合格率 44.1% (5)学校農業クラブでの成果 県予選3種目以上入賞 (6)地域と連携した取組の推進 年間50回以上 (7)授業に対する生徒の満足度 80%以上	評定 A B A C A A A	総合評価 B 地域産業、特色を活かした農業教育の取組を展開し、地域と連携した取組を推進することができた。 生徒たちは、様々な地域貢献活動を行う中で、豊かな人間性や社会性を高めることができた。また、達成感や自己肯定感を得る機会を通して、他の学習活動や学校生活に積極的に取組む姿勢が養われた。 さらに、地域の課題解決に向けた取組・研究は生徒の思考力・判断力・表現力の育成につながり、本校教職員の資質も向上するなど、本校の強みとなっている。	○教員数が減少し、生徒へのサポートは大変だと思うが頑張ってもらいたい。 ○専業農家を講師に招聘するなど、更に農業への関心を高め自営者の養成につなげてもらいたい。 ○時代の流れに対応した食品製造に取り組んでもらいたい。	生徒の課題・地域の課題を常に把握し、その解決を目指す取組を充実させることが、本校農業教育の活性化につながると捉え、現在の取組を継続、深化させたい。 そのためには、関係団体との連携をさらに密にすることで、地域の教育資源を有効に活用することが望まれる。 さらに、上記の取組を遂行することで、学校の存在価値・生徒の学習価値を高め、生徒の進路へとつなげていくことが重要である。
		活動計画 (1)-1農場生産物を活用した6次産業化を推進する (1)-2地域貢献からエシカル消費を推進する (2)教職員の資質向上を目的とした校外研修等に参加する (3)学校開放講座の実施により、地域連携を推進する (4)農業技術検定に対応した補習体制を構築する (5)生徒の意識の高揚を図り、学校農業クラブ活動を活性化する (6)科目「地域貢献」の適正な活動計画と内容の充実を図る。 (7)実習ノートを活用し、実習科目の充実を図る	活動計画の実施状況 (1) -1他校と連携し、未利用農産物から防災を意識した商品づくりを実施。 (1) -2環境保全・地産地消等、農林業を学ぶ日々の学習活動の実践からエシカルについて発信することができた。 (2) 農業指導の技術向上に努めるため、先進地研修や講習会に参加した。 (3) 生徒が日頃の学習成果を披露する場となり、自己肯定感が高まった。 (4) 補習計画を立て全農業職員が指導を行った。合格者数は前年度に比べ増加した。 (5) 意見発表の部で、四国大会に出場するなど一定の成果を収めることができた。 (6) 年間71回地域と連携した取組を実施することができた。 (7) 実習内容と自己評価を記入することで、態度や行動力の向上が見られた。				

【備考】 総合評価における「評定」の基準】 A：十分達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。

平成30年度 学校評価総括評価表

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	今後の改善方策	
人権意識の高揚	(全校レベル) (1) 同和問題を中核に据え、様々な人権問題の学習をすることで、差別や人権問題の解決に主体的に取り組む生徒を育てる。 (2) ホームルーム活動を通じ、学年やホームルームの枠を超えた仲間づくりを目指す。 (3) 日々の生活や研修等を通じ、教職員の人権意識を高めていく。	評価指標 (1) 同和問題についての学習を各学年で年間1回以上実施。 (2) 学年(1・2組) 合同のホームルーム活動を各学年で年1回実施。 (3) 活動的な人権ホームルームを各学年2回以上実施。 (4) 新規の人権ホームルーム指導案作成2つ以上。 (5) 教職員人権教育研修会年3回以上。 (6) 人権新聞の発刊 年3回以上。	評価指標の達成度 (1) 1年生では2回, 2年生では1回, 3年生では2回実施した。 (2) 1年生では6回, 2年生では5回, 3年生では3回実施した。 (3) 各学年で3回以上実施できた。 (4) 新規の指導案を4つ作成できた。(1年生3つ, 3年生1つ) (5) 2回実施。3学期末に1回予定。 (6) 発行できていない。	総合評価 B (所見) 人権ホームルームにおいては、 ①生徒の興味関心の持てる内容にする。 ②主体的に考える活動にする。 ということを柱に指導案が作成された。学年ごとに大きなテーマを決めて、3年間で連携した学習内容になっている。	○「知る」ことは人権教育では大切なことだと思う。思い込みや偏見をなくすような人権教育を推進してもらいたい。 ○「人権新聞」は年間1回だけでもいいので発刊してもらいたい。	人権学習には、意欲的な態度で臨めるようになったものの、それが実際の生活で生かされていない場合も多い。学校生活そのものが、人権が尊重され守られるようになるためには、教職員の共通理解で、一人一人の指導にあたらなければならない。 時代とともに新しく考えていかなければならない人権課題も増えてきた(ハラスメント、性的マイノリティー、ブラック企業の問題など)。限られた時間の中で、どう取り入れていくか、その指導の工夫が必要である。来年度は、多くの内容に触れていきたい。
		活動計画 (1) 学校の活動内容や生徒の実態に合わせた内容で同和問題を学習し、主体的に考えさせる活動を取り入れる。 (2) 人権教育課とホームルーム担任との連携で教材を作成する。 (3) グループワークやロールプレイングなど活動的な内容を取り入れた人権ホームルームを行う。視覚的教材も充実させる。 (4) 各研究大会や主事研修会などの内容をまとめ、教職員の教材研究に役立ててもらおう。 (5) 最新の情報の収集に努める。 (6) 毎日の生活にある人権問題について提議し、身近な問題について考えさせる。	活動計画の実施状況 (1) 1年生では「同和問題とは何か」、2年生では「いのちをいただく」、3年生では「就職差別」「結婚問題」で同和問題の学習を行った。ワークシートなどに工夫を凝らし、生徒自身の生活と関連できるような内容にした。 (2) 教員の情報交換のもと作成できた。 (3) ほとんどの授業で、パワーポイントやグループワークなどを取り入れた授業を行った。 (4) 指導案作成時の参考資料として提示した。また教職員研修などに利用した。 (5) 個人的にも勉強をしている。 (6) 学校の実態に合わせたり、農業の観点からもアプローチできる学習内容にしている。			

備考 総合評価における「評定」の基準】 A：十分達成できた。 B：概ね達成できた。 C：今後の努力が必要

平成30年度 学校評価総括評価表

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	今後の改善方策
開かれた学校づくりの推進	(全校レベル) (1)教育活動の公開及び情報発信により本校教育への理解と関心を高める。	評価指標 (1)学校Webページの情報発信状況 年間100回以上	評価指標の達成度 (1)学校Webページの情報発信状況 年間129回	評定 総合評価 A	○専門高校の特色を生かした取組は、新聞などのメディアをとおして拝見している。今後とも頑張ってもらいたい。 ○地域との連携した取組が活発に行われている。 ○PTA役員として学校運営に携わってきたが、教職員が頑張っていると感じた。教職員の多忙感は否めず、行事も多くもう少し精選すれば良いと感じる。 ○学校と家庭との連携を更に深め、教育環境を充実させてもらいたい。
	(下位組織レベル) (1)幼小中学校へ情報発信(異校種間連携)を行う。 (2)地域社会との連携による諸行事に参加し学校の活性化に取り組む。 (3)学校Webページを活用し魅力情報の発信に努める。 (4)PTA活動の活性化に取り組む。	(2)本校行事等に対する報道機関等の取材回数 25回以上 (3)学校開放講座の参加者の満足度 100% (4)保護者の学校行事等への参加状況 年間100人以上	(2)本校行事等に対する報道機関等の取材回数 17回 (3)学校開放講座の参加者の満足度 100% (4)保護者の学校行事等への参加状況 年間138人		
		活動計画 (1)担当者との連携を図る。 (2)-1幼稚園、小学校に食農教育の教材の提供を行う。 (2)-2地域の文化祭等の催し、行事に参加をして本校教育の理解を図る。 (3)体験入学、開放講座などを実施して本校教育への理解を図る。 (4)役員会等の活性化を図り、行事への参加者増加を進める。	活動の成果・課題 (1)PTA役員との協議を重ね、学校祭・体育祭等の各種行事の活性化につなげることができた。 (2)-1幼稚園・小学校での食育教育、農場を開放しての野菜・果樹の収穫体験など異校種との連携活動は学習意欲の向上につながった (2)-2地域のイベント等に積極的に参加し、販売・展示等をとおして本校教育活動を広報することができた。 (3)中学生体験入学を2回、開放講座を5日間実施し、生徒の教育活動の広報につなげることができた。 (4)役員はもとより、多くの保護者の方にご協力頂き、行事の活性化につなげることができた。		

【備考】 総合評価における「評定」の基準】 A：十分達成できた。 B：概ね達成できた。 C：今後の努力が必要